

平成 29 年度 第 2 回 静岡市立登呂博物館協議会会議録

- 1 日 時 平成 29 年 9 月 21 日 (木) 午前 9 時 30 分から正午まで
- 2 場 所 静岡市立登呂博物館 1 階 登呂交流ホール
- 3 出席者 (協議会委員)  
石川 宏之 会長、山岡 拓也 委員、伏見 和久 委員、  
杉山 昌之 委員、海野 美枝 委員、杉山 美代子 委員、  
弓削 幸恵 委員、石亀 雅敏 委員  
(事務局)  
和田 明久 静岡市観光交流文化局次長  
岡村 渉 文化財課長  
文化財課 (登呂博物館)  
伊藤担当課長兼館長、田中主幹兼副主幹、益田主査、  
小島主任主事、鈴木主任主事、武田主任主事、桑山主事
- 4 傍聴者 0 人
- 5 議事記録
- 1 観光交流文化局次長挨拶
  - 2 前協議会からの答申
  - 3 委嘱状交付
  - 4 会長及び職務代理者の選任
  - 5 博物館施設視察
  - 6 議事
    - (1) 平成 29 年度前半の事業報告
    - (2) 平成 30 年度の方針について
    - (3) 議題「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策について」

事務局

それでは、定刻となりましたのでただ今より平成 29 年度 第 2 回 静岡市立登呂博物館協議会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただき誠にありがとうございます。

始めに本日の会議ですが、委員定数 10 名のところ、8 名の方の御出席いただき、過半数に達しております。そのため本会議は成立いたします。

また、本会議は市民の皆さんに公開しておりますが、本日は傍聴希望者の方がいらっしゃらないことを併せて報告させていただきます。

私、益田が会の進行を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。  
それでは静岡市観光交流文化局次長より御挨拶を申し上げます。

#### 次長

本日は、お忙しい中をお集まりいただきまして誠にありがとうございます。

この登呂博物館は、教育現場ということもありますし、特別史跡ということで登呂遺跡の保護・活用という観点で、東アジアの中の登呂遺跡という広域的な視野に立って文化的学術的な価値を検証して広く発信するという重要な役割もでございます。

博物館では今年度もイベント、展示事業を積極的に取り組んでいるところですが、昨年度、この登呂博物館で所蔵しております出土品のうち 775 点が重要文化財に指定されたということで、その保存や出土品を活用した事業を行うことも求められています。また、今年は登呂遺跡の本格的な発掘調査から 70 年という節目の年に当たります。初めて学際的な発掘調査を行った遺跡ということで日本の歴史の中の意義深い遺跡となっておりますので、静岡市の一つの財産として、PRをこの博物館の役割として担っていかなければならないと思っております。

考古学的文化が持つ魅力をこれから後世に引き継いで世界に広げていくという意味で、皆さんから今後の博物館運営に関して忌憚の無い御意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### 事務局

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

まず、配布資料の確認をお願いいたします。

「静岡市立登呂博物館協議会委員名簿」「本日の次第」「協議会資料」「平成 29 年度 登呂博物館組織図」「特別史跡登呂遺跡」「登呂博物館パンフレット」「登呂博物館年間スケジュール」「9 月 30 日から開催の企画展「東海土器五十三次展」のチラシ」「登呂博物館の館報 平成 27 年度分」以上でございます。お手元に揃っておりますでしょうか。

次に、前協議会からの答申をいただきたいと存じます。

平成 27 年 8 月から平成 29 年 7 月までの 2 年間において、『3 次総でめざす「歴史文化のまち」実現のための登呂博物館の在り方について』議論をしていただきました。その答申を登呂博物館協議会前会長 石川宏之様よりいただきたいと存じます。

#### 石川前会長

『3 次総でめざす「歴史文化のまち」実現のための登呂博物館の在り方について』提言をさせていただきます。

平成 27 年度から平成 29 年度までの 2 年間で、『3 次総でめざす「歴史文化のまち」実現のための登呂博物館の在り方について』教育的側面や、文化的側面に加え、観光的側面を視野に入れて重要遺物の活用や、いかにして子どもを中心に考古学の魅力、登呂遺跡の価値を継承

していくかを検討してきました。これまでの当協議会での議論を踏まえて、将来の静岡市立登呂博物館の運営や、行動計画に反映するよう答申したいと思います。

具体的には、登呂博物館及び登呂遺跡のこれからの役割や在り方について、平成 18 年 3 月に策定された「静岡市立登呂博物館建替基本構想」では、登呂博物館の基本理念で目指す役割について、「登呂遺跡や伝える歴史や文化あるいは地域について豊かな実感を持って学ぶことができる場となり、人々の活気にあふれる集いと温もりのある交流を生み出していく役割を果たします」と記載されています。また使命については、「1 登呂遺跡と一体化した遺跡博物館、2 稲作農耕文化に関する調査・研究の拠点、3 登呂遺跡の発掘調査がもたらした意義の継承、4 情報の収集と発信、ネットワーク化の推進、5 楽しく・豊かに・実感できる学びの創出、6 学校教育との連携・生涯学習への支援、7 「登呂学」の創造を通じた交流の促進」と綴られています。

基本的には、これらを踏襲しつつ、これからの登呂博物館の役割として東アジアの農耕文化の中で登呂遺跡を位置づけ、戦後間もない発掘調査で歴史学、考古学にもたらした学史的意義と日本国民に希望を与えた社会的意義を再認識し、子どもたちが郷土の誇りと帰属意識を持ち、海外から訪れる人たちとの交流を生み出していく役割を果たすことを提言したいと思います。

以上、今後の登呂博物館の在り方について協議会で検討した結果を答申し、登呂博物館が自己点検・自己評価を行い、これを活かしてミッション、使命や目的を文章化し博物館を成長、発展させる行動計画を策定することを期待したいと思います。

—石川前会長より館長へ答申書手交—

館長

ただ今いただきました答申からの提言につきまして、内容をじっくり見せていただいた上で、キーワードとしては「東アジア」、「子どもたちへの郷土の誇りと帰属意識」というものについて特に強調していきながら博物館としても活動していきたいと考えています。特に「子どもたちの」ということについては、今後の新しい協議会の中のテーマの一つでもありますので、その中でも活かしていきたいと思います。

ありがとうございました。

事務局

ただ今いただきました答申につきましては、後ほど皆さんにもお渡ししたいと思います。

(追加資料の配布：弓削委員より「コドモンデ」、「子ども店長」のチラシ)

次に、博物館協議会委員の委嘱です。委員の任期は、平成 29 年 8 月 1 日から平成 31 年 7 月 31 日までの 2 年間になりますので御承知おきください。

それでは、委嘱状を交付させていただきます。なお、伏見委員、杉山昌之委員におかれましては、市職員として協議会委員に任命させていただいております。

—和田次長より委嘱状手交—

(海野委員、弓削委員、石川委員、山岡委員、杉山美代子委員、石亀委員)

改選後初めての協議会となりますので、各委員の皆さんより自己紹介を兼ねて御挨拶をお願いいたします。

(各委員挨拶要旨)

伏見委員

4月から南部小学校校長。登呂博物館に来るのは子どもが12歳のとき、25年前以来。非常に新鮮な気持ち。学区内にある博物館なので良い関係を持っていきたいと考えている。

杉山昌之委員

清水第五中学校校長。登呂遺跡は小学校では訪れるが中学校の生徒との関わりは薄い気がする。対象をどのくらいに絞っているかによるが、中学校の立場から何か意見が出せればと思っている。

海野委員

HITSファシリテーション代表。県内の中小企業、組合、団体の運営・経営のサポート等を行っている。以前は静岡市の市民活動センターでNPO関係、市民活動の支援をしていた。色々な方々からの情報収集を踏まえて登呂博物館に意見を反映させていただき、役に立てればと思っている。

弓削委員

NPO法人「まちなびや」理事長。子どもと地域を繋ぐというテーマで、放課後子どもが来られる場所を作ったり、学校に出向いてキャリア教育、出張教育などを行ったりしている。子どもが色々な人と接点を持つことが何よりの学びだと思うので、貴重な施設、登呂博物館をうまく活用していけたらと思っている。

石川委員

静岡大学准教授。専門は博物館学と都市計画。学芸員養成過程で博物館概論と博物館経営論の授業を担当、今年から農学部で都市計画論の授業をしているが、登呂博物館をまちづくりの視点から、どう地域に位置づけて活性化していくかということに関心を持っている。

#### 山岡委員

静岡大学准教授。人文社会科学部で考古学を担当。専門は旧石器時代。主に石器の研究・実験をしているが弥生時代にも石器を使っているので共通する部分もあると思う。自分の研究について、学生に教えたり、研究成果を一般の人にどうやって知ってもらおうかということには関心を持って色々考えているが、登呂遺跡でこれまで明らかにされてきた研究成果をどのように伝えればわかりやすいか、面白いかということにも大変興味を持っているので、そういうところで何か役に立つことができればと思っている。

#### 杉山美代子委員

市民委員。登呂博物館から徒歩2～3分のところに住んで45年になるが、なかなか博物館の2階までは来たことがない。色々なイベントや行事をしていることを資料で初めて知ったが、地域の方は殆ど知らないのではないか。折角近くにあるのだから、地元の人に愛されて大いに活用、来館してもらえようようなことが提案できたら良いと思っている。

#### 石亀委員

市民委員。中田本町、比較的近くに住んでいる。孫を連れて遊びに来ていたが、いつも人がまばら。日本を代表する立派な遺跡、重要な資料が沢山ありながら、地域はもとより興味がある人の来場が非常に少ない。資料の数字を見ても年々減っている。登呂遺跡について個人的に危機感を持っていた。広大な敷地の活用を行政的に見直す必要があるのではということので今回委員に応募した。

#### 事務局

続きまして、館長より事務局職員を紹介させていただきます。

#### 館長

資料「平成29年度 登呂博物館組織図」を御覧ください。

登呂博物館は、観光交流文化局の中の文化財課の中に位置しています。局長が中島、局次長が和田、文化財課長は岡村です。登呂博物館の正規職員は私を含め7名です。非常勤が5名（事務1名、弥生体験を指導する者4名）、臨時職員が7名（図書3名、屋外で体験学習を指導する者4名）。以上が博物館の職員になりますが、実際に運営していく中には、職員プラス、ボランティアの人たち、ミュージアムショップの従業員、受付（委託）の職員が数名おります。

今年度、皆さんとの連絡等の担当は、益田ちづると小島秀美です。よろしく申し上げます。

#### 事務局

続きまして、会長及び職務代理者の選任についてですが、協議会を代表する会長の選出は、委員の皆さんの互選により定めることとなっています。皆さんから推薦いただければと思います。

伏見委員

石川委員にやっていただければと思いますが、いかがでしょうか。

事務局

ただ今、伏見委員より石川委員の推薦がありましたが、他になければ、石川委員に会長をお願いすることで、異議なければ拍手をお願いします。

—全委員より拍手—

事務局

それでは石川会長は会長席に移動、御挨拶をいただきたいと思います。

—移動—

石川会長

今回、会長職として第2期目、3年目になりますが、前回の答申も踏まえてそれを引き継ぎつつ、残された課題、新たに今日の議題でもある「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための登呂博物館における課題の解決策について」というテーマを、この2年間で皆さんと議論しつつ、改めてその成果を答申したいと思っています。御意見、御指導よろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございます。また、あらかじめ、石川会長の職務代理者を指名することとなっておりますので、石川会長から御指名いただけますか。

石川会長

前回2年間、色々御意見をいただいております山岡委員に職務代理者になっていただければと思いますがいかがでしょうか。

—全委員より拍手—

事務局

それでは山岡委員、職務代理者としてよろしくお願ひいたします。一言御挨拶をお願いします。

山岡委員

前2年間、委員として関わり、どのようにやるのか、どういう役割が期待されているのかと

いうことを見せていただき、今回職務代理者をさせていただきますが、自分から積極的に意見を持ってお役に立てるように頑張りたいと思います。よろしく申し上げます。

事務局

今回、委員の改選により初めて委員となった方がいらっしゃるので、登呂博物館の施設について視察という形で30分程度、皆さんに見ていただきたいと思います。

—館長の先導により各委員視察へ。10：00～10：30—

事務局

それでは議事に入りますが、進行については石川会長にお願いしたいと思います。

石川会長

議事に入る前に、議事録について公開することになっており、私、石川の他にもう1人署名者として、山岡委員に議事録の確認をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

山岡委員

(了承)

石川会長

それでは事務局から説明をお願いします。

館長

今回は改選後初めての協議会ということで、まずは登呂博物館の概要について御説明させていただきます。資料の1ページから3ページです。

まず資料の3ページを御覧ください。まず、昭和30年にその前身として静岡考古館が開館しており、登呂博物館は昭和47年に開館しております。以来、登呂遺跡の遺物や農耕文化を紹介する博物館としてその役割を果たして来ました。その歴史の中で、平成6年度に展示室の一部を参加体験型展示に改修して、弥生時代の生活が体験でき、子どもから大人まで楽しめる博物館として好評を博して参りました。平成22年度には、施設の老朽化を改善するために、全面建て替えでリニューアルオープンして現在に至っております。

資料1ページに、概要・基本理念があります。概要については1にあるとおり、登呂遺跡は、貴重な国家的文化遺産であり、静岡市を代表する文化的シンボルであります。登呂遺跡と一体化した遺跡博物館となることを目指し、登呂遺跡の保存と後世への継承、有意義で幅広い活用に努めて活動しています。

3に基本理念があります。基本理念は、先ほど前回の答申の内容でも触れていただきましたが、1の「登呂遺跡と一体化した遺跡博物館」、以下、7の『「登呂学」の創造を通じた集いと交流の促進』までの7項目を挙げており、博物館はこの基本理念を果たすように活動をす

るといったところです。以上が概要です。

次に、入館者状況は資料4ページ、5ページです。非常に長い歴史のある博物館ですが、昭和47年の開館時、総入館者数が28万人を超えております。これは、このときに発見から調査の経緯が非常に話題に上っていたこと、また登呂遺跡が教科書へ掲載されたことで、全国区の遺跡として非常に著名だったということも手伝って、28万人という多くの入館者がありました。ただ、平成に入るところ、全国で相次ぐ重要遺跡の発見（平成元年の吉野ヶ里遺跡の発見・発掘など）があり、相対的な位置づけがやや他の遺跡に譲るところが出てきたこともあって、段々入館者が減ってきたということがあります。

平成22年度に老朽化により全面建て替えになりましたが、10月3日オープンで、22年度途中からということになり、平成23年度がフルにオープンしたスタートの年となります。リニューアル時の入館者が20万人です。その翌年から現在まで18万人台で推移している状況です。オープンの年は非常に多かったですが、その後年々減っているというよりも、18万人台でずっと固定しているというような状況です。

資料1ページ5に登呂博物館協議会の役割として、「館長の諮問機関として、館の運営に関する意見を述べる。様々な分野から委員が選出され、多角的な視点から検討を行う。現在、静岡市において、文化財行政の状況が大きく動き始めている。このような中で今後の登呂博物館の在り方について検討を行う」と記載されていますが、もともと博物館協議会というのは、博物館法第20条で「協議会を置くことができる」とあり、静岡市の博物館条例で「法律に基づいて協議会を置く」と決めている経緯があり、博物館がより良くなるよう運営について皆さんに御意見をいただくということです。以上です。

石川会長

ただ今の説明に対して、御意見、質問等がありましたら挙手をお願いします。

石亀委員

協議会資料4ページの入館者推移人数について、観覧者数と総入館者数の欄を比べると、平成22年度から総観覧者と総入館者の人数が違っていますが、それ以前は一致していたようです。それぞれの捉え方を教えてください。

館長

平成22年度というのはリニューアルオープンした年になっております。その年から1階は無料、2階が有料とゾーンを分けており、観覧者数というのは2階の有料（展示）ゾーンを見ていただいた人数です。それ以前は有料、無料ゾーンの区別が無く、入口から中に入ることによって観覧券が必要になっていたため、総観覧者と総入館者の人数が一致していました。

石川会長

他に御意見、質問等がありましたら。



石亀委員

資料に「登呂公園」とあるが、登呂博物館との関連性についてお聞きしたい。

館長

厳密な意味で「登呂公園」というと、登呂遺跡の中をさらに区域分けが必要がありますが、ここでいう「登呂公園」とは、いわゆる「登呂遺跡」の部分と見ていただければ良いと思います。博物館というのはこの建物の中ということです。

伏見委員

基本理念7に、「登呂学」の創造とあるが、「登呂学」というのは登呂の学問と捉えて良いですか。

館長

「登呂学」という言葉は、基本構想を作ったときの造語です。考古学的なものだけでなく、登呂遺跡のある場所、地域を含んだ登呂遺跡、登呂博物館といったもの全体としての学習テーマという捉え方になります。いわゆる「静岡学」、「～学」などと色々なところで使いますが、それを登呂遺跡、登呂博物館に持って来て「登呂学」という言い方をしています。

石川会長

続きまして、平成29年度前半の事業報告を事務局よりお願いします。

館長

資料7ページ以降になります。

6ページから12ページまでについては、現状の入館者の数や、入館者の方々にアンケートを取ったものが並んでおります。

上から2つ目が今年度の前半の表になりますが、4月の総入館者は19,882人、以下8月まで記載のとおりです。昨年と比較すると、昨年の4月、5月は非常に人数が多かったです(4月24万人、5月29万人)。これは、昨年の3月に登呂遺跡出土品が重要文化財に指定されるという内示がありましたので、それを受けて私たちも色々な宣伝、PRをしたのでその効果が上がっていたものと考えられます。

総入館者を4月、5月だけで比べると去年より今年の方が少ないということになりますが、6月、8月の部分では、若干持ち直しているので、後半、博物館の事業をどのようにPRしていくかというところが勝負でもあり、これから頑張っていきたいと思っています。

資料7ページにありますが、平成28年度から芹沢銈介美術館との共通観覧券を始めました。非常に好評です。同時に買えるだけでなく割引で買えるので「両方観ると安い」というお得感を感じていただくということで始めました。昨年と今年を比べると今年の方が若干少ないですが、ほぼ同じような数になっています。

資料8ページ、これは数年続けている調査ですが、「どこから来ましたか？」という自己申

告のアンケートです。都道府県で言うと、静岡（一番多いのはある意味当たり前ですが）、神奈川、東京、愛知、千葉これは昨年、一昨年とほぼ同様の傾向です。今のところ、静岡に加えてこの4県が非常に多いところです。それから海外を見ていただくと、アジア、アメリカ、ヨーロッパが多く、昨年はアジア、ヨーロッパ、アメリカの順でしたので、ほぼ同じような傾向を示しているかと思います。アジアの中では、昨年は中国が多かったです。

資料 11 ページ、交通手段のアンケートですが、やはり一番多いのは自家用車で、これは地域的なものかなと思います。バスもかなり多いですが、県外から来るとなると東名、新東名高速、国道一号を使う、これは数年来、同じような傾向です。

資料 12 ページを見ていただくと、「次はどこへ行きますか？前はどこへ？」という調査になりますが、これも大体同じような傾向が数年続いております。今年度の上半期でいうと、三保の松原、久能山東照宮、駿府城跡というところが多いのですが、昨年は、久能山東照宮が一番多く、三保の松原と駿府城跡が同率で2番目でした。また、「ふじのくに地球環境史ミュージアム」が昨年駿河区大谷に開館し、そちらも少し伸びてきておりますので、今後のPR展開の参考になるかと思っております。以上が入館の傾向、アンケート調査の結果です。次に事業内容に移ります。資料 13 ページから 24 ページに 29 年度の上半期の事業内容が記載されております。

13 ページに展示の内容を挙げております。なお、上半期の状況ですが、今後予定してあるものも記載しており、概要のところ「未開催」と書いてあるものは、これから実施する計画のものです。

現在は、企画展として「石の刃物と鉄の刃物」、「登呂発掘と静岡市の近現代」が終わり、次に9月30日から始まる「東海土器五十三次展」に備えて準備をしているところです。観覧者数に関しては、ほぼ昨年と同じですが、4月の観覧者は昨年と比べると少し落ち込み、少なくなっております。

14 ページ以降は講座・イベントについて記載があります。ここでは登呂遺跡の水田活用として3つ、3番目に「古代農業体験食育」というものがあります。水田活用については、広大な水田跡を活用しておりますので、できるだけ多くの方に参加していただきたいところですが、水田跡の全面を水田化するというところまでは今のところ至っておりません。

「市民水田」は、応募でやっていますが、今年は20グループ参加していただいております。昨年はもう少し少なかったのですが、年々希望者が増えているところです。

また、講座・イベントの「8子ども学芸員」「9夏休み自由研究お助け隊」「10とろむら体験フェスティバル」は、いずれも夏休みに実施したもので、子ども向け、宿題向けの講座で非常に多くの方が参加して下さいました。とろむら体験フェスティバルは、延べ1,500人の参加がありました。

15 ページはこれから実施する予定の事業になります。近いところでは9月24日に十五夜のイベントとして「11へそもちづくり」という行事をこの会場で行う予定です。

16、17 ページには、当博物館主催の事業以外の共催・連携事業について記載しております。代表的なものでは、「1シズオカ×カンヌウィーク」というイベントを5月13日に実施しました。これは登呂遺跡で、昼間はマルシェが開催され、夜間は映画を見るといったことをし

ており、今年で3回目の事業となります。また、「4 弥生がテーマのファッションショー」を7月に実施しておりますが、これはミュージアムショップとの共催事業です。「5 駿河区全体での連携事業」は、南部生涯学習センターが連携先ですが、この登呂博物館の紹介パネルを数十枚用意して、駿河、長田、南部、大里の生涯学習センター4会場を巡回するもので、現在は長田でパネル展示を行っております。

「6 登呂カルタ・すごろく」は、開催日を見ていただくと非常に多く、8月20日を初めとして2月まで月1回のペースで行いますが、常葉大学教育学部の学生が、昨年度までに作成した登呂遺跡に関連する大型カルタとすごろくを使い、この会場で子どもたちを集めて実施するもので、8月20日に実施したときには、95名の参加があり非常に好評な事業です。その他、静岡県埋蔵文化財センターの巡回展や、静岡科学館る・く・るに、自然科学に関連したブースを出展するといったこともしております。

その他は、5月に呈茶サービスを行い、8月には博物館実習の受け入れをしています。

18 ページ以下、広報、広告の関係を記載しております。広報に関しては有料と無料ものがあります。最近は特に、Webサイトでの紹介が増えており、Webサイト、雑誌の掲載を合わせて今年度は38件実施する予定です。テレビ、ラジオ、新聞については20ページにあります。テレビ（取材が来て番組に出していただくもの）は、記載は7件ですが、10月2日に第一テレビの「まるごと」で紹介されますので合計8件の取材がありました。ラジオ、新聞もあり、新聞に関しては今までに19件掲載していただきました。

21 ページの「3 トロベールによる宣伝活動」についてですが、トロベールは今年の1月24日に駿河区の応援隊長に就任いたしました。登呂博物館のキャラクターとの兼任ですが、トロベールが直に色々なところに出て行って駿河区のPR、博物館のPRを行うということです。

22 ページの「⑩インターネットミュージアム ミュージアムキャラクターアワード 2017」の記載がありますが、つい先日8月1日から9月14日までインターネットミュージアムというサイトで、ミュージアムキャラクターの人気投票が行われました。37のキャラクターが出場し、トロベールは最終的に6位という結果でした。

最後になりますが、23 ページにボランティアの活動内容、活動人数について記載しております。28年度の登録者数は4月1日現在で37名、今年度は45名です。「4 ボランティアの比較」がありますが、ボランティアの登録者数が多いということは確かですが、博物館が一番求めたいのは1日あたりの参加者数がどれだけあるかということです。それを比較すると、27年度の4.8名から29年度上半期は6.4名で徐々に増えております。ボランティアの方ですので、「この日に来なさい、絶対来て下さい」という言い方はできませんし、個人の意思を尊重しなければなりません。それを含めてもこちらからの「是非来ていただきたいのですが」という投げ掛けに対して応えていただいているといったところです。また、新規ボランティアの募集を8月1日から8月31日まで行い、10名の応募がありましたので、先ほどの人数にさらに加算されることとなります。冬期募集も12月から行い、さらに人数を増やしたいと考えております。以上です。

石川会長

それでは今までの内容について、御意見、質問等がありましたら挙手をお願いします。

山岡委員

来館者数に関して質問です。来館者数は基本的には増やしたほうが良いということだと思いますが、目標値はどのあたりですか？以前と比べてその人数に近づけるということなのか、その他の娯楽施設との比較ということですか。

館長

入館者が多いということが最終目的ではなく、博物館の使命がどれだけ果たせるかということになります。一つの目安としては、22年度オープン時の20万7,000人という数値があり、前回の協議会の中でも「オープンすると一時的に人が増えるが、そこからどれだけ減らさずにいくかということが一つの勝負」という意見をいただいたことがあります。あくまでも目安ですが、20万人という数にどれだけ近づけることができるかということが一つの目標です。

石亀委員

駐車場の経営は博物館でやっていますか？それとも委託ですか？

館長

駐車場は、土地の所有者が静岡市で、管轄が文化財課登呂博物館ということになります。そこを観光コンベンション協会にお貸しして、運営をそちらで行っています。

石亀委員

現在、駐車料金は400円ですが、来館者を多くするために、例えば300円、200円にするなどの考えはありませんか？

館長

駐車料金の話はこれまでも何度か出ております。400円という金額は確かに安くはないので、もう少し安くないか、あるいは、博物館に入ったら割引するなどはないかということをお観光コンベンション協会また市の内部の方でも検討中ではあります。現時点では結論は出ておりませんが、何かしら安くまた、サービス向上できることがあればと案を模索しているところです。

石亀委員

登呂遺跡運営に関して、公開できるならば、概略で良いので収入、支出を教えてください。

館長

平成 27 年度資料になりますが、お手元の館報に記載されております。それが十分かどうかということになりますが、施設を管理していると色々なところが壊れてきたり、直したりというようなこともありますし、色々な事業もありますが、基本的には予算に応じて動けるように、動きやすいような予算を確保しているつもりではあります。

館報については、平成 28 年度版が 9 月 27 日に完成いたしますので、出来次第、皆さんに送付させていただきます。

弓削委員

来館者の目標が 20 万人という話があり、18 万人という現状から見ると近いという気がしますが、観覧者数についての目標値は何か設定されていますか？

館長

20 万人というのは一つの目標ではありますが、20 万人は最初の目標が達成したものなので、それを目安としてそれを目指してできるだけ多く・・・ということでもまず知っていただきたいと思います。

観覧者については、現在 45,000 人（28 年度）で、23 年度は 66,000 人と非常に多かったですが、これは年々行われる企画展の内容などにも左右されます。6 万人というのは非常に高い数値であり、45,000 人で持ち直している部分がありますが、これについても何とか工夫をして前年度をできるだけオーバーするということを目指しています。

石川会長

次に、平成 30 年度の方針について伊藤館長から御説明をお願いします。

館長

資料 25 ページから 27 ページです。内容としては、基本的には今年とほぼ同じになっております。

企画展について、内容を決める時期は最低でも 1～2 年前からは決めなければなりません。年 4 回テーマを決めておりますが、そのターゲットあるいは内容の考え方を明確にした上で、基本的にはこれを目安として展示を計画したいということを挙げております（必ずしもその内容でなく、何か他のイベントの関係で前後することもあるかもしれませんが）。

企画展Ⅰについては、時期的に春休みから小学生の見学時期に当たりますので、静岡の遺跡、地域の遺跡・歴史文化というものを学ぶという大きなテーマに即した内容の展示です。

企画展Ⅱについては、夏休みということで、対象は県内外の子ども・ファミリーとし、登呂遺跡に繋がることを見るということを大テーマにしております。

企画展Ⅲについては、9 月の行楽シーズンについては、登呂遺跡を中心とした考古学の紹介をテーマに、ターゲットを大人、観光客にして、県内外を含めて全国的な人たちをターゲットとして、登呂博物館での研究の成果を少しでも示せば、少しでもこの登呂博物館で研究

をしてその成果を示せばということを設定しています。

最後の企画展Ⅳは、1～3月は閑散期になりますが、世の中が非常に忙しい時期で、例年なかなか人が集まらない時でありますので、幅広いテーマで考古学以外でもOKということで自由に楽しんでいただくために来てもらうという理由でテーマを設定しています。

具体的に来年度の計画を見てきますと、25 ページの下段これは企画展Ⅰに当たりますが、今年度の終りから来年度にかけて行われるもので、「ウトウ・トロ・タカノミチ」。これは登呂遺跡に関係の深い周辺遺跡ですが、それについて紹介していくという内容です。

次に、26 ページの企画展Ⅱ「富士山が見える」、これは富士山の世界遺産登録5周年に当たり、そこから関連する登呂遺跡の見方を紹介していきたいというものです。

次に、企画展Ⅲ「さよなら平成！登呂の「平成」を振り返る」これは仮題ですが、平成30年で平成が終わるということもあります、平成になってから登呂遺跡、登呂博物館では再調査、再整備、博物館のリニューアル、重要文化財の指定など非常に大きな出来事がありましたので、ここで登呂の「平成」を振り返ろうという内容です。

企画展Ⅳの「阿部をとこ、登呂をとめ」（仮題）は、やや砕けた内容ですが、登呂遺跡の発掘に関わった人たちに焦点を当てて紹介するというものです。

最後の企画展Ⅴ「静岡市の旧石器・縄文時代」は、静岡市の遺跡・遺物の紹介を行います。過去に「静岡平野の弥生時代」、「静岡平野の古墳時代」という展示を行っておりますので、それに並ぶような展示として、時代を古い時代に設定しているものです。

題名につきましては、それぞれ仮称とついております、決定ではありませんが、おおよその方針としては25 ページの表を活かすための企画展として現時点としてこのように考えております。内容は今後変わってくる可能性もあります。

26 ページ（下段）以降は、例年とほぼ同じような内容ですが、遺跡の関連としては水田事業をメインにして、それに関連する事業（田植え体験、稲刈り体験）で、水田をできるだけ広く活用していくということが目標です。

27 ページ4には、出土品保存修理事業について記載しております。これは、実施する場合には国の補助金をもらって行うものです。今年度も予定はしてはしておりましたが、国の補助金との絡みが上手くいかず、実施していない事業ですので、来年度は是非行いたいという希望はあります。ただ、これから国と折衝していくものですので、決定ではありません。登呂遺跡の出土品775点が重要文化財に指定されましたが、非常に劣化している物もあるので、それを永久に残していくために、専門的な保存処理が必要だということで順番に進めていく予定です。保存処理件数は775点のうち、今のところ440点を予定しておりますが、一度にできるわけではありませんので、初年度は70点の処理を行いたいという希望です。

以上です。

石川会長

皆さんから御意見、御質問をお願いします。

杉山美委員

来館者の7割が県外の方という報告がありましたが、他県へのPRは大々的にされているのですか？

館長

まず、小学生に関しては全国ではありませんが、関東圏（特に神奈川県）については、毎年春に八王子市の先生方が集まってこちらに見学に見えます。そして、見ていただいた成果によって夏以降団体の見学者があるということが一つあります。それから、全国的な宣伝としては、先ほど広報のところでお話しましたが、全国的な旅行雑誌「るるぶ」などをできるだけ活用していること、また、毎年東京、大阪、名古屋あたりで静岡県観光協会が主催する観光業者を集めての説明会がありますので、そちらへも直接参加し、資料をお渡し、できるだけ大都市の観光業者に周知できるような形を取っています。

杉山昌委員

資料13ページに事業実施状況の報告があり、何人来たということが書かれています。それぞれの事業についてこの登呂博物館の使命があると思いますので、「この事業はそれほど人が集まらなかったが博物館としてはどうしてもやらなければならないかった」または、「この事業は、人は沢山集まったが内容的に博物館の使命から見るとどうか」というようなことを踏まえて、これまで行っている事業について評価されていると思いますが、その内容がわかりません。

それぞれの事業についてA、B、C、Dなどの評価をして、次の事業に対する方針が定まっているとは思いますが、来館者数だけではないところ（の評価）も何かの機会に教えていただきたい。

また、来館者の中には、リピーター、1回来たら良い人などがいると思いますが、何度も来ている人、2度目に来ている人などの状況がわかる調査をされているのか伺いたいです。

館長

最初の御意見について、評価の形としては人数だけではなく内容が目的に沿っているかどうかということが必要ですので、今後は検討していきたいと思っています。

リピーターに関しては、今日は資料化しておりませんが、アンケートを取っておりますので、次回には示せるようにしたいと思っています。

石川会長

事業報告を聞くと、相当なマンパワーが要るにも関わらずよくやっていると率直に思っています。しかし、効果があるのかどうかの指針はミッションや理念であり、「今まで色々やってきたがこれは最優先でやらなければならない」など、事業の整理が必要になってくると思っています。

その上で今回答申させていただいた内容にもありますが、「自己点検、自己評価をまずした

上で、基本構想を踏まえて自分たちがどこまで達成できたのかを見直すことが必要です。それから今後強みをどう活かし、部分的な弱点、弱みを館外の大学、小中学校、NPOの方などと協力してどう改善していくか」といったことを、今後この協議会の中で話し合っ、前進できるように繋げていければと思っています。

そういう意味でも今後自己点検、自己評価を進めていただいた上で、資料も次回出してもらえると有り難いです。

次に、最後の議題「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策について」事務局から説明をお願いします。

#### 館長

資料 28 ページに、今期の議題として「子ども世代への、登呂、考古学、文化の魅力を継承するための、登呂博物館における課題の解決策について」と挙げさせていただいております。これについては、前回の提言の中で役割や在り方について様々な意見をいただきました。その中でも特に「子ども世代への魅力継承」というところについて、もう少し議論を深めていただき、御意見をいただきたいと思い今回の議題にさせていただきました。

#### 石川会長

このような魅力を後世に伝えていくために、展示、体験活動、教育普及事業、共催事業などの取り組みを行っているということで、今回「子ども」というキーワードを踏まえて、皆さんからの御意見、御提案をいただければお願いします。

#### 石亀委員

子どものことについて考えるのは非常に大事なことだと思っています。

静岡市も高齢者福祉、子育てという部分で至るところで行政として話が出ていますが、実際、私たちの地域にしても子育てをしているお母さん方の行き場が無いという声が出ています。子育てをする上でも、子どもを連れて行くところがないということで、登呂公園として子育てができるような環境作りをできないだろうかというようなことを思っていました。

8月25日の朝刊に、島田市の伊太に「田代の郷」という多目的レクリエーションセンターがオープンし、子どもから大人まで遊べるような環境を、2万平米を使って作ったという記事がありました。行政はもちろん、地域の役員、子育て者、高齢者などの団体の方々が集まって、環境作り、居場所作りを作ったという記事でした。

私たち地域としても、「子どもが集まると親も集まる、祖父母が一緒についてくる」ということをよくわかっており、夏祭りや行事でも、どうやって子どもを集めようか、「子どもも喜べて事業も成功する」ということを考えています。ここでは夏祭りを毎年やっているようですが。

静岡には若いお母さん方の行き場所が無い、島田市へ行くと1階がスーパーで、2階が図書館、3階が子育て広場という非常に大きい施設があり、静岡からも若いお母さん方がそこに行って子育てしているということも聞いています。是非、「子育て」ということを含めて登



呂公園が魅力ある静岡市の地域住民の居場所となるよう、また登呂博物館を中心に住民が日ごろ集えるような環境作りを考えていただきたいと思います。

#### 伏見委員

「小学生から見て」ということでお話をさせていただきます。

子どもが登呂博物館、登呂遺跡を使う時期は小学校6年生の社会という大きなものがあり、時代の中の1つとして登呂を使います。それまではあまり興味がないし、それを過ぎると戦国武将というものに興味移っていきます。そういう意味で、1点の通過点として登呂が捉えられているというのが小学生の現状ではないかと思えます。

先ほど「登呂学とは？」とお聞きしましたが、子どもたちは「可愛いもの」、「きれいなもの」、「はっとさせる」、「見るだけでハッピーになる」というものに、すごく興味を示して、「自分からやってみたい」、「調べたい」、「学びたい」という気持ちが起きる訳ですが、遺跡を見ても出土品を見てもそういう気持ちにはならないようです。そうすると「登呂学」というのがキーワードになってきますが、それを「子どもが興味を持つように、深く、面白く」というところに持っていくと、子どもが「点」ではなく、6年生を過ぎても、中学生になっても、あるいは6年生にならなくても4年生5年生のうちから「これはすごいな」、「やってみたいな」という気持ちが沸き起こってくるのではないかと思えます。気持ちを沸き上がらせることが伝承ということにも繋がるのではないかと思うので、そういう取り組みができれば良いと思えます。

静岡市は平成34年度から小中一貫教育が全面実施されることになり、その1つの目玉が「静岡学」というものをそれぞれの地域でやりましょうということになっています。ここは高松中学校がありますが、その周辺の3つの小学校（南部小学校、富士見小学校、森下小学校）と高松中学校で何か1つテーマを決めて、小中でできることを考えていこうという取り組みがあります。その中に登呂、「登呂学」というものが入ってくると、小学生から中学生まで興味・関心を持って、移り行く線ができるのではないかと思えます。その時に子どもの追及に耐えられるかどうかという視点で委員として見せてもらえたらと思っています。

#### 石川会長

きっかけは小学校であっても、それを持続させて中学校にどう繋げていくかということですね。杉山委員いかがでしょうか。

#### 杉山昌委員

中学校の修学旅行は京都・奈良に行きますが、中学生だと飛鳥にはあまり行きません。いわゆる遺跡、古墳系の物があるところは中学生の段階で見に行ってもなかなか・・・というところがあり、奈良・平安のきらびやかな所、お寺には行きます。

そういう意味で言うと、中学生に登呂遺跡、登呂学という形で繋げていくには、課題を持って取り組んでいけるような何らかの仕掛け出てくると良いと思えます（具体的ではないのですが）。

石川会長

「登呂学」という学問体験ができれば、教材として活用できるのでは・・・

山岡委員

展示で弥生時代はどういう時代という説明をするのが主だと思いますが、土器、出土遺物は地味で、直接子どもがそれを見て興味を持つかとかというのは確かに他の方が仰っていたとおりに思います。一方で、「研究してわかること」というものもあります。例えば石器の使用実験で、この石器はこれに使ったということがわかるとか、私はそういうことが楽しいからやっているのですが、研究の仕組みを単純化して、発掘調査、考古学の研究的な側面を分かりやすく紹介できたらと思いました。

石川会長

第一線で活躍されている研究者のことにに関して、わかりやすくワークシートにするなど、教育の方にブレイクダウンしていく教材開発を、学芸員の方、職員の方、小学校の社会科の研究会のような組織などで、一緒にやっていくというような仕組みが出来上がると上手く回り出すかもしれません。

山岡委員

先端の研究でなくても、発掘調査などもっと基本的なものでも良いと思います。

弓削委員

発掘という話がありましたが、最初にここを発見した時の興奮、「見つけた！」という感動は、今の子でも自分で見つけたと思えば心に残ると思います。

化石の発掘キットがよく売られていますが、ここに来ると土器の発掘体験擬似コーナーがあり、(土器は)レプリカで良いので、何か手がかりになるような仕掛けがあって、何人かで協同して、見つけ出したものを自分たちで組み合わせて(パズルコーナーにもあったが)、「発掘してものを解き明かしていくことは面白い！」と何人かでも感じてくれれば、このスタートに戻った感動を、世代を超えて共有できるのかなと思います。子どもの頃に読んだ「SOS地底より」という課題図書で、自分がかげらを拾ったことがスタートで謎を解いていくという冒険ものの話がありましたが、そういうことができる面白いなと思いました。また、土器を自分で作ってみるとか、参加・体験してお土産として持ち帰れる物があるとファミリー層は嬉しいので、レンジでチンして作れる箸置きなどもありますし、何かここで縁のあることをやって、土の質がそのものでなくても良いので、参加型で「楽しかったからまた今度こういう事をやりたい」という気持ちでリピーターになってくれたら良いかなということを感じました。

それから、ぬり絵。トロベーもいますので、稲作についての面白い紙芝居のようなものや、四季があると聞いたのでその場面を簡単にぬり絵にして持ち帰って楽しんでもらったり。ぬ

り絵は高齢者の施設の方にも好評と聞いていますので、そういうところにも繋げていけるかと思えます。常葉の造形学部の方とコラボできるなら、学生さんは上手に力を発揮してくれるかなと思います。

#### 海野委員

県外の50代女性と60代男性が静岡にいらしたときに話をする機会があり、修学旅行と家族で来たことがあると言ったので、「静岡のどこに来たことがありますか？」と聞くと、「登呂遺跡」と返って来て驚きました。しかし、その時の表情がすごくノスタルジーというか、ほのぼのとした表情で話されていて、子どもの頃こちらに来たときに感じたものがずっと残っていて、60歳になってもあの表情が出たのだと思います。今回のテーマは「子ども世代への・・・」ということなので、幼児期、小学生、中高生、対象は色々ですが、経験したことは中長期的にどのような影響があるのかというところが、こちらの使命として、何か残るのが懐かしさ、ほのぼのとした感じプラス使命に関わった「登呂だから残るもの」というのを何か子どもたちに残せないかと感じました。

直近の小学生と中学生でこちらに来たことがある子たちが、勉強の一貫という感じで来たのですが、あまりこちらのインパクトが無いようでした。が、駿府匠宿には3回、4回リピートして行っていて、毎回体験で作るものを「次は〇〇」と決めて行っているようです。子どもが「〇〇を作りたいから連れて行って」と親に言っているのですが、それを実際に生活の中で使っていて楽しんでいるということもあります。本来の静岡市として提供しているものがミッション、市が提供できない何かそういうものに子ども世代で体験をした後、今お話があったような体験だけではなく何か「登呂学」の研究や学びという面白さに結びついていくような、生活の中で使えるものがあって、作った思い出だけでなく、体験の中で何か作りたいな、ということをお話を聞いて思いました。

#### 杉山美委員

遺跡ということなので、子どもたちに古い時代のものに関心を持ってもらって、発掘などが出来たら良いと思います。地球環境史ミュージアムでは石の中から自分で化石を掘り出せるというコーナーがあり、小学2年の孫がはまっていたので、ここの中でも昔の物が出てこないか体験させるとか、その時代の人たちが食べていた物を自分たちで火を起こして実際に食べてみるとか、そんな体験コーナーができれば良いと思います。

#### 石川会長

キーワードとしては「体験」。そこから興味を抱いて、常時ここに来ればできるような教育プログラムがあると、リピーターとして繋がっていき、それが小中学校に繋がっていくというご意見を色々いただきました。ここの1階にも無料の体験がありますが、あくまでも決められた形なので、さらにそれだけではなく新たな体験、それはお金もかかるということなので場合によっては、開館リニューアルオープン10周年記念などの企画の中で新たに予算を要求しながら検討していただければと思います。

皆さんからの御意見については、今後博物館の運営に活かして貰えればと思います。

これで議事を終了させていただき、事務局へお返しします。

事務局

これをもちまして平成 29 年度第 2 回登呂博物館協議会を閉会させていただきます。  
本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございました。

署名欄

静岡市立登呂博物館協議会

会長

---

委員

---